

オーストラリア ビジネスイベント特集2025





ビジネスイベントの旅行消費額拡大に期待 日本市場全体の伸びに貢献する ビジネスイベント需要

オーストラリアを訪れる日本人旅行需要が順調に伸び、ビジネスイベント目的の日本人旅行者も着実に増えている。日本の上場企業の過去最高収益が塗り替えられ、業績好調の企業による今後の需要増も予想される。そんな期待が高まるなか、オーストラリアにはビジネスイベントの最有力デスティネーションとなり得る確かな理由がある。

訪豪旅行需要が大幅増

オーストラリアを訪れた日本人旅行者数は2023年が約30万人だったのに対し2024年は約40万人と33.0%も増えた。このうち観光目的の旅行者だけで比較すると2023年の約18万人から約26万人へ44.1%も増加している。2024年の世界各国からの訪豪旅行者数は前年比13.9%増の合計820万人で、観光目的だけでは24.1%増の360万人。日本市場は全体傾向よりはるかに大きく伸びているわけだ。

2024年の日本人旅行者の経験度を見ると、リピーターが前年の38%から42%へ増加し、初訪問者は62%から58%に減少しており、市場としてより成熟していく傾向にある。

旅行支出や観光消費額も増大

日本人旅行者の消費額も伸びており、2024年の旅行総支出は16.7%増の21億AUDとなり、オーストラリアでの消費額も16.7%増の14億AUDとなった。これを観光目的の旅行者だけで見ると消費額は6億8210万AUDで前年より66.1%も伸びている。

概ね順調な数字が並ぶが、減少傾向にあるのが1回当たりの消費額で、前年の6446AUDから5799AUDに10%減っている。消費額の増大は直接、あるいは間接的に関連事業者の収益増につながるだけに、ビジネスイベント促進は日本とオーストラリアの両旅行業界にとっての課題といえる。この1回当たりの消費額を拡大するうえでも消費額が大きいビジネスイベント需要の取込みは重要性を増している。

ビジネスイベント企画を 情報面で支援強化

ビジネスイベント促進に取り組むオーストラリア政府観光局(TA)は、その一環として情報面での支援を強化。ビジネスイベント・オーストラリア(BEオーストラリア)のサイトを通じてMICE関連の最新情報やプランニングに役立つアイデアを提供。

<https://businessevents.australia.com>

参照



またオンライン・ニュースマガジン「AUSTRALIA NEXT」を発行。最新の2025年2月号では、「新しい宿泊施設」「ユニークな会場」「最新ダイニング」「都市や地域で五感を刺激する体験」「いま行くべき場所」「専門家に聞く」「おすすめの日程」「自然に浸るウェルネス体験と多感覚アクティビティの紹介」「持続可能なプログラムをグループで体験できるよう専門の現地ガイドの案内」等の情報を発信している。TAでは厳選した最新情報の提供を強化することで、オーストラリアに対するMICEプランナーの注目度と企画モチベーションを高め、誘致促進を図っていく考えだ。

ETAはスマホアプリで簡単に取得可！

オーストラリアビジネスイベント8つの魅力

① 充実のアクセス

成田、羽田、関空からオーストラリア5都市(ブリスベン、ケアンズ、メルボルン、パース、シドニー)へ直行便が運航され選択肢は豊富。新千歳からの季節運航を含め今後路線拡大の見込み。

② 快適な気候

南半球に位置するオーストラリアは日本と季節が反対なので避暑や避寒に最適。主要都市は四季の楽しみも豊富で、ケアンズやゴールドコーストは年間を通して温暖・快適だ。

③ 抜群の治安

日本並みの治安の良さはビジネスイベント開催地として最大のメリットだ。飲食店や宿泊施設などの衛生管理や水道水の品質管理も信頼でき健康・衛生面の不安がないのもアドバンテージ。

④ 充実のホテル

2020年以降、200以上のホテルが開業または改装され、最大1900室が増加。最高級ブランドのシティリゾートホテルから個性的なブチ・ホテルまでラインナップも豊富だ。

⑤ 多彩なベニュー

世界クラスのコンベンションセンターが各主要都市に完備されている。船や島、庭園、テーマパーク、アウトバックなどあらゆる場所がユニークベニューとして活用できる。

⑥ 美食とワイン

西洋と東洋をフュージョンしたモダンオーストラリア料理や世界的に人気のワインなど、極上のフード&ワインを提供。移民の国だけに世界各国の本格料理や和食も楽しめる。

⑦ 雄大な大自然

世界遺産大国のオーストラリア。世界最大級の一枚岩や珊瑚礁群、熱帯雨林、山脈などの多くは主要都市からのアクセスも良好。現地に参加のアクティビティ体験も魅力だ。

⑧ 時差わずか1時間

日本と、ほぼ真南に位置するオーストラリアにはほとんど時差がない。東部が+1時間、西部が-1時間で夏時間でも最大差は2時間。時差ボケが起これにくく、日本と同じ時間帯に連絡を取り合えるメリットは大きい。

各州のサポートプラン

● オーストラリア

BEオーストラリアは助成金をサポートするプログラムを展開中。2026年6月30日までに確定し、2029年12月31日までに開催予定の400名以上のイベントや展示会、700名以上のインセンティブが対象で、審査に通る必要がある。対象外であっても相談を。

Business Events Bid Fund Program - Business Events Australia - Tourism Australia

● ニュー・サウス・ウェールズ州

BEシドニーはMICEグループに対し、誘致から開催まであらゆる面でサポートを行っている。MICEに関するアドバイスはもちろん、シドニーを選択すべき理由の説明、インセンティブツアーの事例など様々な情報提供を行う。

<https://www.besydneyn.com.au/>

● ゴールドコースト

ゴールドコースト観光局では、日本からのMICEグループに助成金をサポートするプランを実施している。ゴールドコーストに3泊以上する250名以上のグループが対象。

<https://experiencegoldcoast.com/business-events>

● 西オーストラリア州

BEパースは、10名以上のグループ1人につき最大50Aドルを助成するプログラムを実施中。2026年9月30日までの旅行完了や、BEパース加盟のホテルでの最低2泊ないしはビジネスイベント等の実施が条件だ。

<https://www.busesseventsperth.com/host-an-event/business-event-support-application/>

● ビクトリア州

メルボルン・コンベンション・ビューローは地方部（メルボルン以外）滞在を促す助成金プログラムを提供。参加者10～149名が対象で、州内に3泊以上し、うち1泊は地方に滞在し、アクティビティを行うなどが条件。

<https://www.melbournecb.com.au/plan-an-event/business-events-grant-program>

● ノーザンテリトリー

ノーザンテリトリーBEはMICEグループに助成金をサポートするプログラムを実施中。ウェブサイトから申請でき、代表者1人につき最低100Aドルの助成金がサポートされる。

<https://destination.ntbusinesssevents.com.au/nt-business-events-support-fund>

オーストラリアの産業に注目!

オーストラリアはビジネスイベント先進国としてテーマパーティーやユニークベニュー、チームビルディングプログラムなどの多彩さ、トランスファー自体をエンタメ化する斬新なアイデアなど、運営面のアドバンテージが良く知られている。

一方でオーストラリアのビジネスイベントを実施すべき根本的な理由も存在する。それが、さまざまな産業分野で世界クラスの専門技術やノウハウの蓄積があることだ。とくに農業ビジネス、資源・エネルギー、健康など6つの分野ではオーストラリアがリーダー的な存在で、これら分野の国際会議や学会の開催地になることも多い。

● 農業ビジネスと食品

生産物の半分以上を輸出するオーストラリアの農業。広大な大陸の多様な気候と栽培環境を克服してきた高度な農業技術や最先端のバイオテクノロジーは、世界の農業ビジネス関係者の学びの場として注目を集める。農業用植物に関連する国際会議、学会の舞台にもなっている。

● テクノロジーと製造業

南半球最大級のテクノロジー産業を擁し、製造業の幅広い分野で先進的な技術を開発してきた。航空機のフライトレコーダーやデジタルマップ、WiFiシステム、人工内耳等の分野では世界を変革する技術革新をリードしてきた実績がある。



● インフラストラクチャー

旅行需要の受入と観光促進のためのインフラ開発が各地で推進されている。空港建設や道路敷設、リゾート施設プロジェクトなどに関し資金調達から建設工事、運用まで豊富なノウハウを蓄積。今年には国際土木建設会議を開催。2027年にはブリスベンでUNIグローバル会議を予定。

● 資源とエネルギー

天然資源大国としての豊富な経験を持つオーストラリア。資源探査から資源開発に際しての環境管理まで、世界の先端に行く。安全性と生産性の向上、持続可能な開発に関するものなど鉱業特許出願数は世界トップクラス。世界鉱山会議や海洋エネルギー会議など開催実績も豊富。

● 健康

数々の医療技術革新を生んできたオーストラリアの医療。古くはペースメーカーや超音波診断、人工内耳の開発に貢献。重要な癌ワクチンの開発実績も。保健分野の国際会議を数多く開催しており、2026年にはシドニーで国際小児神経腫瘍学シンポジウムや国際移植学会を開催予定。

● 宇宙と防衛

数千の企業が防衛・宇宙産業に携わり、今後数十年の単位でこの分野における主要プロジェクトの増大が見込まれる。昨年パースでアジア太平洋宇宙機関フォーラムを開催。今年9月にはシドニーで国際宇宙会議(IAC)を、2026年にはシドニーで国際航空科学会議(ICAS)を予定。

オージー・スペシャリスト・プログラム(ASP)

マイペースに学べるオンライン学習でオーストラリアのプロに!

<https://www.aussiespecialist.com/ja-jp>



AUSSIE
SPECIALIST
PROGRAM



自主的に学べる環境や 多彩なコンテンツに定評

「オージー・スペシャリスト・プログラム(ASP)」は、旅行会社向けのデスティネーション認定プログラム。オーストラリアの基本情報を万遍なく学べるeラーニングプログラムで、自分のペースで学習を進めることができる。ユーザーテストに基づいてデザインされたサイトは使いやすく快適と好評。学習プログラムのほかにも、ゲストを迎えるウェビナーや販売に役立つモデルコー

ス情報なども入手可能だ。5月にリニューアルされたウェビナーのページは、登録しておくで開催時にリマインドされて便利。また、認定者対象の懇親会や研修旅行なども用意されているので、ニュースレターもチェックしておきたい。

スペシャリスト認定後も アクティブに情報活用を!

現在、スペシャリスト認定者は約2800名。このうち8割が1年以内にログインしているアクティブユーザーだが、プログラムは

最終ログインから3年経過すると認定が切れてしまうので注意が必要だ。認定を維持するためにも定期的に新規学習コンテンツやウェビナーを活用し、デジタル資料をダウンロードするなど最新情報を積極的に取得するといいたいだろう。



スペシャリスト限定イベントの様子

世界有数のダイレクトセリング企業アムウェイの日本法人である日本アムウェイ合同会社が2024年12月11日から18日まで、西オーストラリア州の州都パース(ボーラー)で優秀な会員を称えるインセンティブ・イベント「ジャパン・ダイヤモンド・カウンシル2024パース(JDC)」を開催。日本アムウェイは、アムウェイ・ビジネス・オーナー(ABO)と呼ばれる会員の中で対象期間内に優れた成績を残した会員の活動を称えるイベントを複数開催しているが、JDCはその中でも「ダイヤモンド」と呼ばれるレベル以上の資格を得た会員のみが招かれる特別なイベント。そのJDCに同社協力のもと記者が同行取材し、パースが選ばれた理由や現地プログラムの様子、今後へのヒントを探った。



西オーストラリアで日本アムウェイが最上位会員のインセンティブ旅行実施 全日程同行で見たオーストラリアの強みとヒント

2017年以來のオーストラリア開催

JDCのオーストラリアでの開催は2017年のメルボルン以来。今回のJDCでは日本全国の約60万組の会員のうち137人が参加し、関係者を含めた延べ宿泊数は約1000泊となり、州にもたらされた経済効果は直接的な消費のみで185万豪ドル規模となった。



「ひかりの街」らしく期間中は毎日この上ない晴天

パース選定の理由とは？

日本アムウェイが数ある候補の中から渡航先を選定する際に重視する要素はなにか。同社のイーナ・メンシコヴァ社長は「日本のABOはハイエンドかつハイクオリティなデスティネーションを好む。そしてオーストラリアの人気は常に高い」と語り、自然や文化、スポーツなど多様な魅力を備えるオーストラリアは常に有力な候補だと明言。また、昨今の為替変動の中で欧米諸国と比較して豪ドルが比較的落ち着いていて割安感があることもプラスになると説明した。

さらに、最も重要になるのがそれぞれの

イベントに見合うクラスのホテル客室が十分に確保できることと直行便の存在で、特に日系航空会社による直行便があるかどうかは非常に大きな判断基準になるという。



新滑走路の建設など50億豪ドル規模の開発計画が進むパース空港。ANA便のデリー化にも期待がかかる

その点、パースはANAが成田ーパース線を週3便で通年運航しているほか、シンガポール航空やキャセイパシフィック航空など東南アジア系航空会社の経由便も充実。日本全国からビジネスクラス以上を利用して参集しやすい環境が整っていることが評価された。

またホテルも、今回のJDCで利用された205室の「ザ・リッツ・カールトン・パース」や6ツ星500室の「クラウン・タワーズ・パース」のほか、229室の「ダブルツリー・バイ・ヒルトン・パース・ウォーター・フロント」、



パース初の6ツ星、クラウン・タワーズ・パース

488室の「パン・パシフィック・パース」、計48室のVIP向けブティックホテル「コモ・ザ・トレジャリー」など、バリエーションに富んだ多くのホテルがこの10年程度の間に次々と誕生または改装を経てリオープン。さらに州内でも新たな開発計画が多数進んでいる。

短い滞在でもオーストラリアを満喫

今回のJDCは12月11日から16日までの4泊6日を基本とし、特に成績の優秀な「エグゼクティブ・ダイヤモンド」以上のABOはさらに2泊を追加。はじめの4泊はリッツ、追加2泊はクラウン・タワーズを利用した。



旅の始まりはオプタス・スタジアム。これまでに全豪一のスタジアム評価を何度も獲得している

運営体制では、旅行の手配やホスピタリティデスクなどの業務を日本旅行が受注。日本アムウェイ社員も含めると参加者約4人あたり1人の割合でスタッフを配置しサービスに当たった。

またガラディナーやビジネスセッションなどのほか、スワンバレーやロットネスト島、フリーマントル、マーガレットリバーなどでレセプションやアクティビティを設定し西オーストラリアの魅力を堪能できるようにした。

工夫をこらし感動と愉悦を実現

今回のJDCの主要なファンクションでは、会社の方針などについて説明するビジネスセッションを12日にオプタス・スタジアムで開催。同日夜にはウェルカムレセプションをスワンバレーのワイナリー「サンダルフォード」で実施した。



サンダルフォードでのレセプション。
ワインペアリングディナーに舌鼓

このレセプションは帰国後のアンケートでも高い評価を獲得。美しい風景の広がる開放的なワイナリーを舞台とした特別感や、屋外での弦楽四重奏やDJ、フィナーレにサプライズで打ち上げた花火などが到着直後のABOに心地良い驚きと高揚感をもたらしたようだ。

また14日にはリッツ・カールトンのボールルームでグランドバンケットを実施。オーストラリアの壮大な自然や大地の力を感じた旅のフィナーレとして「Power of the Stars」をテーマとし、夜空にまたたく星をイメージした照明を各テーブルに配置するなど装飾にも力を入れ会場に入った瞬間に参加者からは大きな歓声が上がっていた。



ルーウィン・エステートに着陸するヘリコプター。
専用の小型機用滑走路も敷地内に備える

さらに延泊の権利を得た最上位のグループには、これらに加えて最終日に合計12機のヘリコプターと小型飛行機に分乗してオーストラリアが誇るプレミアムワインの産地マーガレットリバーを訪れ、日本でも人気の高いワイナリー「ルーウィン・エステート」でワイナリーの創業家も参加する贅を尽くしたランチョンも用意。美しく飾られたロングテーブルでのエクスクルーシブな体験に多くのABOが目を見張っていた。

またクラウン・タワーズ内NOBUでのディナーもアンケートで高評価を獲得。和食が



和食をはじめ様々な美食が揃うのも多民族国家である
オーストラリアならではの強みだ

ABOたちの心を掴んだようで日本から料理人を呼び和朝食を毎日提供したリッツにも称賛のコメントが集まった。

好みで選べる 5つのアクティビティ

アクティビティは13日をあて、参加者が好みに合わせて選べる5つのアクティビティを企画。「世界一幸せな動物」として大人気のクオッカが暮らすロットネスト島、州内最古のワイン生産地スワンバレー、砂漠に立ち並ぶ奇岩群が絶景のピナクルズ、植民地時代の面影を感じインド洋の紺碧の海も望めるフリーマントルの4方面へのツアーとり



スワンバレーではカバジャム・ワイルドライフ・パークも
訪問。コアラやカンガルーと触れ合った

リッツ・カールトン内でのスパ体験を取り揃え、ロットネスト島ではさらにアドベンチャーボート、島内周遊バス、セグウェイの3つの選択肢を設定した。

予約段階で最も人気だったのは37人が集まったフリーマントルで、ピナクルズとロットネスト島が28名と27名で続き、スワンバレーは17名、ホテルスパは19名だった。

各ツアーの参加者はロットネスト島のクオッカやピナクルズの奇岩群、開園前のカバジャム・ワイルドライフ・パークでのコアラ抱っこ体験、西オーストラリアの雪と呼ばれるランセリン砂丘などパース周辺で外せない西オーストラリアならではの体験を満喫した。



フリーマントルではスタンプラリーが好評

ウェルネスのトレンドも追い風に

また今回大きなテーマとなっていたのが「ヘルス&ウェルネス」。これは植物由来の製品開発や、人間の体内で共生する微生物群「マイクロバイオーム」を活用した科学的な健康促進など自社の強みを打ち出すブランディングの一環。



晴れわたったスワンリバー沿いでのヨガ体験

ジャパン・ダイヤモンド・カウンシル 2024 パース日程表

	ダイヤモンド〜ファウンダーズ・ダイヤモンドの 資格取得者	エグゼクティブ・ダイヤモンド以上の 資格取得者
12月11日(水)	パース到着	
12月12日(木)	AM●ビジネスセッション(オプタス・スタジアム) PM●自由行動 夜●ウェルカムレセプション(サンダルフォード・ワイナリー)	
12月13日(金)	選択制アクティビティ	
12月14日(土)	AM●ヘルス&ウェルネス アクティビティ または自由行動 PM●自由行動 夜●グランドバンケット(ザ・リッツ・カールトン・パース)	
12月15日(日)	パース出発	PM●クラウン・タワーズ・パースへ 移動後自由行動 夜●カジュアルディナー(NOBUパース)
12月16日(月)	—	昼●スペシャルランチョン (ルーウィン・エステート)
12月17日(火)	—	パース出発



ホテル内レセプション会場など各所で
アムウェイの製品を体験できる接点をふんだんに用意

アクティビティでもスワンリバー沿いでヨガやキングスパークで自然を全身で感じるフォレストセラピー、ビジネスセッション前のスタジアムウォークを組み込むなどし、ABOが実際にヘルス&ウェルネスを体感して帰国後の活動に生かせるように工夫をこらした。

なお、メンシコヴァ社長は「パースや西オーストラリアは手つかずの自然や健康なライフスタイル、持続可能性への取り組みなどがヘルス&ウェルネス企業としてのブランディングに合致していた」と語り、この点もパースを選定した理由のひとつになったと説明している。

ウェルネスはコロナ後の世界の大きなトレンドで今後インセンティブなどビジネスイベントにとっても重要なキーワードとなることが予想される。類まれな大自然を持つオーストラリアは極めて優位なポジションにあると言えるだろう。



最上位会員には「VIP」ナンバーの専用車も手配

同行取材で見た オーストラリアの強みは？

オーストラリアは、2022年2月に新型コロナウイルスに関する渡航規制を完全に撤廃後、オーストラリア政府観光局は同年10月

に『グッデイ!』ではじめよう、オーストラリア」キャンペーンを開始して全世界の旅行者に歓迎のメッセージを発信。現在に至るまで日本からの海外旅行市場で回復を先導し、2024年も出国者数が2019年比65%に留まるなかでオーストラリアへの訪問者数は約40万人で同80%となり2025年の完全回復が現実的な目標となっている。



オーストラリアでは日本人/日本語話者を雇用する
観光業者も多数。ワーキングホリデー人気も後押し

そしてMICEでも2023年2月に日本アムウェイが1633名ものABOをシドニーに集め大規模イベントを開催するなど回復が先行。この4月にもメルボルンとホバートの両空港で中国アムウェイの大型グループを見ることができた。



ホバート空港に到着する中国アムウェイのグループ

ちなみに、メンシコヴァ社長が最重視すると話したホテルと航空路線はオーストラリア全土でますます充実しており、ホテルでは2020年3月以降に268軒25,000室超が新規開業。一例としてブリスベンでは昨夏にIR施設ザ・スター・ブリスベンが誕生して340室がオープンし、最終的には初進出のローズウッドなど計4軒1000室以上のラグジュアリーホテルが揃う計画だ。

航空路線も今年12月想定で羽田、成田、関空からシドニー、ブリスベン、メルボルン、パース、ケアンズへ最大週90便、ここにカンタス航空のシドニー-札幌間季節便が加わり全体で2019年比20%増。日系は日

本航空がシドニーとメルボルン、全日空がシドニーとパースに就航し、さらにアジア経由の路線もますます利便性が増している。

更なる満足度向上へのヒントも

インセンティブの目的であるビジネスに対するモチベーションの維持、向上の観点では、日本アムウェイは今回のJDCで満足のいく結果を得られたと評価。メンシコヴァ社長も滞在中のインタビューではあるが「オーストラリアでのインセンティブ実施は当然ながらこれが最後になることはない」と語ったほか、主要都市の一つから積極的なアプローチを受けているとの内部情報も得られている。



ルーウィン・エステートでのランチョン。
参加者の満面の笑みが印象的だった

アンケートでは、時差や治安といったオーストラリアの強みが実際に評価につながったことがうかがえたほか、「フリーマントルでのスタンプラリーが盛り上がって楽しかった」と工夫が実を結んだことも見て取れた。またアクティビティについては「能動的体験」や「知的好奇心を満たす体験」を求める意見もあり、オーストラリアが誇るスポーツやアボリジナル文化などのテーマで更に満足度を向上できる可能性も示された。

このほか、参加者の高齢化や若手会員獲得の必要性という日本アムウェイのみならず多くの日本企業が直面する課題に対しても、バリアフリー先進国でありなおかつ子育て世代や3世代での旅行でも高い人気を誇るオーストラリアは最適なデスティネーションと言える。

本冊子で紹介した各州・都市の最新情報や助成金など支援策の情報が活用され、各社のビジネスに繋がることを期待したい。



Hotel list for business events

ホテル名 (和・英)	客室数	メインベニュー面積	バンケットスタイル	カクテルレセプション	URL
クイーンズランド州 ● ゴールドコースト／ブリスベン／ケアンズ					
ザ・ランガム・ゴールドコースト The Langham Gold Coast	339室	618㎡	500名	785名 (シアタースタイル)	https://www.langhamhotels.com/en/the-langham/gold-coast
JWマリオット・ゴールドコースト JW Marriott Gold Coast Resort & Spa	238室	678.4㎡	500名	1000名	https://www.marriott.com/en-us/hotels/oosp-jw-marriott-gold-coast-resort-and-spa
ザ・スター・ブリスベン The Star Brisbane	340室	2000㎡	1440名	1847名	https://www.star.com.au/brisbane
ハミルトン島 Hamilton Island	757室	912㎡	700名	1000名	https://www.hamiltonisland.com.au
シャングリ・ラ ザ・マリーナ、ケアンズ Shangri-La The Marina, Cairns	255室	306㎡	240名	400名	https://www.shangri-la.com/jp/cairns/shangrila
ニュー・サウス・ウェールズ州 ● シドニー					
パークロイヤル ダーリング ハーバー シドニー PARKROYAL Darling Harbour, Sydney	341室	202㎡	150名	290名	https://www.panpacific.com/en/hotels-and-resorts/pr-darling-harbour-sydney.html
カペラ・シドニー Capella Sydney	192室	129㎡	64名	80名	https://capellahotels.com/en/capella-sydney
パラドックス・シドニー [※] Paradox Sydney	364室	196㎡	110名	200名	https://www.paradoxhotels.com/sydney [※]旧称 Radisson Blu Plaza Hotel, Sydney
インターコンチネンタル・シドニー InterContinental Sydney	509室	497㎡	250名	400名	https://www.ihg.com/intercontinental/hotels/jp/ja/sydney/sydnha/hoteldetail
W シドニー W Sydney	588室	592㎡	360名	400名	https://www.marriott.com/en-us/hotels/sydw-h-w-sydney/overview
ビクトリア州 ● メルボルン					
リッツ・カールトン・メルボルン Ritz Carlton Melbourne	257室	736㎡	550名	1000名	https://www.ritzcarlton.com/en/hotels/australia/melbourne
クラウン・タワーズ・メルボルン Crown Towers Melbourne	481室	2050㎡	1500名	2500名	https://www.crownhotels.com.au/melbourne/crown-towers
ソフィテル・メルボルン Sofitel Melbourne	363室	796㎡	690名	1000名	https://www.sofitel-melbourne.com.au
グランド・ハイアット・メルボルン Grand Hyatt Melbourne	550室	1050㎡	730名	1500名	https://www.hyatt.com/ja-JP/hotel/australia/grand-hyatt-melbourne/melbo
プルマン・メルボルン・オン・ザ・パーク Pullman Melbourne on the Park	419室	707㎡	510名	1000名	https://www.pullmanonthePark.com.au
西オーストラリア州 ● パース					
リッツ・カールトン・パース The Ritz-Carlton Perth	205室	550㎡	400名	500名	https://www.ritzcarlton.com/en/hotels/australia/perth
クラウン・タワーズ・パース Crown Towers Perth	500室	2000㎡	1510名	2400名	https://www.crownhotels.com.au/perth/crown-towers
コモ・ザ・トレジャリー Como The Treasury	48室	231㎡	160名	500名	https://www.comohotels.com/perth/como-the-treasury
ウエスティン・パース The Westin Perth	368室	800㎡	520名	840名	https://www.marriott.com/en-us/hotels/perwi-the-westin-perth/overview
パン・パシフィック・パース Pan Pacific Perth	488室	560㎡	420名	710名	https://www.panpacific.com/ja/hotels-and-resorts/pp-perth.html
ノーザンテリトリー ● ダーウィン／ウルル					
ミンディル・ビーチ・カジノ・リゾート Mindil Beach Casino Resort	152室	433㎡	250名	440名	https://www.mindilbeachcasinoresort.com.au
オークス・ダーウィン・エラン・ホテル Oaks Darwin Elan Hotel	301室	684㎡	200名	419名	https://www.oakshotels.com/en/oaks-elan-darwin
ヒルトン・ダーウィン Hilton Darwin	233室	271㎡	120名	180名	https://www.hilton.com/en/hotels/drwhdhi-hilton-darwin
マントラ・パンドナス・ダーウィン Mantra Pandanas Darwin	203室	174㎡	100名	55名 (クラスルームスタイル)	https://all.accor.com/hotel/B3N2/index.en.shtml
エアーズ・ロック・リゾート Ayers Rock Resort	702室 [※]	386.5㎡	270名	420名	https://www.ayersrockresort.com.au [※]6つの宿泊施設の総数
南オーストラリア州 ● アデレード					
ソフィテル・アデレード Sofitel Adelaide	251室	88.73㎡	50名	70名	https://www.sofiteladelaide.com.au
イオス・バイ・スカイシティ Eos by SkyCity	120室	628㎡	440名	600名	https://skycityadelaide.com.au/hotel/eos-by-skycity
タスマニア州 ● ホバート					
クラウン・プラザ・ホバート Crowne Plaza Hobart	235室	600㎡	420名	550名	https://www.ihg.com/crowneplaza/hotels/us/en/hobart/hbaho/hoteldetail
ホバート・コンベンション&エキシビション・センター Hobart Convention & Exhibition Centre	244室	-	900名	1800名	https://hcecgandchancellor.com
ウエスト・ポイント・ホテル West Point Hotel	271室	691㎡	540名	800名	https://wrestpoint.com.au

Venue & Experience

ベニュー&体験プログラム

サステナブルを意識したビジネスイベントが充実



今やビジネス戦略に欠かせない要素の1つ、サステナブルな取り組みは、ビジネスイベントにおいても同様に求められている。オーストラリアには持続可能な運営を意識したユニークベニューや体験プログラムが多い。ここでは州別に紹介していこう。

Experience

アース・サンクチュアリ

カーボンニュートラルなアウトバックサイトで星空自然体験

アリス・スプリングス中心部から車で約15分の好立地に位置するアウトバックサイト。光害ゼロの環境の下、知識豊富なガイドによる南半球の星空体験をはじめ、企業向けのチーム・ビルディングやサステナビリティ講義などを実施している。非日常性が高く、プライベート感に満ちた演出も好評で、雄大な自然環境で学びとレジャーの両方を体験できるのが特徴だ。また、

太陽光、雨水、堆肥などを使った100%オフグリッドの完全自給型施設となっているため、サステナブルな理念を実体験することもできる。環境やエネルギー関連の企業はもちろん、ヘルスケア系、IT系、教育・研究機関などに適した環境配慮型の幅広いプログラムの提供が可能だ。

Earth Sanctuary
<https://www.earth-sanctuary.com.au>



©Tourism NT/Shana McNaught
雄大なアウトバックで仰ぎ見る南半球の星空

西オーストラリア州

Experience

マインドフル・イン・ネイチャー

自然を体感できるガイド付き森林浴セラピーで心身を解放

パース市内のキングスパークやパースから車で約3時間のマーガレットリバーなどを舞台に、豊かなユーカリの林での自然体験を通して心身の健康をサポートするプログラム。日本の「森林浴」にヒントを得ており、癒しのパワーをもつ自然の中に身を委ね、専門のガイドがマインドフルネスをサポートすることでストレスの軽減や免疫力の向上などを図る。ほかにもヨガやコーチン

グ、ワークショップなどのプログラムが多彩に揃い、企業グループ向けにアレンジも可能だ。なお、国際自然森林セラピー連盟(INFTA)の認定を受けている同社は持続可能な観光認定企業でもあり、また訪れる自然エリアの先住民、アボリジナルピープルの知識や伝統も尊重している。

Mindful in Nature
<https://mindfulforestbathing.com.au>



自然が持つ癒しの力をチャージするウェルネス体験

南オーストラリア州

Venue

アデレード・コンベンション・センター

グローバルなサステナブル認証を取得した世界初の展示場

アデレード中心部の川沿いに建つシンボリック存在。3棟の建物がシームレスにつながり、約2万㎡のフレキシブルなイベントスペースを擁している。最先端のテクノロジーと世界水準の技術力、そして徹底したサステナビリティへの取り組みが評価され、2023年10月にEarthCheckのマスター認証を取得した世界初のコンベンション・センターとなった。これまで同センターは温室

効果ガスの排出量を51%以上削減し、廃棄物の99%以上を埋め立て処分せずに転用。地元の食品救済団体と協力し、2008年以降、20万食以上の食事を寄付するなど社会的な責任も果たしている。なお、徒歩圏内にさまざまな宿泊施設や体験施設があり、交通機関へのアクセスも良好だ。

Adelaide Convention Centre
<https://www.adelaidecc.com.au>



トーレンズ川沿いに映えるモダンな建物

Experience

レインフォレストेशन・ネイチャーパーク

熱帯雨林を舞台に異文化&動物体験が魅力のパーティーを

ケアンズ中心部から車で約30分、世界遺産の熱帯雨林に位置するネイチャーパーク。水陸両用の6輪駆動車「アーミーダック」で行く熱帯雨林ツアーやオーストラリア固有の動物たちに会えるワイルドライフパークが人気だが、ビジネスイベントには夜の貸し切りパーティーがおすすめだ。アボリジナルスタッフによる歓迎の儀式に始まり、ダンスショーや夜の動物園、アー

ミーダックで暗闇の熱帯雨林へと分け入る体験は昼間のツアーとは大きく印象が異なる。ホテルのバンケットでは味わえないケアンズらしいユニークなパーティー会場は、200名以上なら屋台などを配置したお祭りスタイルも可能。敷地が広いので100名以上のグループに最適だ。

Rainforestation Nature Park
<https://www.rainforest.com.au>



歓迎の儀式。送迎には100%電動のバスを使用

Experience

ザ・ファーム・バイロン・ベイ

学びあふれる農場でサステナブル&ヘルシーな食文化体験

シドニーから国内線で1時間15分のバイロン・ベイに位置し、約80エーカー土地をもつサステナブルな農場&レストラン。“ファーム・トゥ・テーブル”がコンセプトで、敷地内で牛、豚、鶏などを飼育し、野菜、果物、花、ハーブなどを育てている。農薬を使用しないフレッシュな食の魅力は、レストランやジェラートショップで味わうことができるほか、周辺地域で作られた農産

物や加工品などを購入することもできる。また、農場の舞台裏を見学できるツアーや動物たちとの触れ合い、食物の発酵やフラワーデザインを学べるワークショップなども開催。ビジネスグループには豊かな食体験とともに地域社会との連携や貢献の在り方を学ぶ機会も提供している。

The Farm Byron Bay
<https://thefarm.com.au>



地域社会に尽くすサステナブルな農場で食べる喜びを実感

Experience

パフフィンビリー鉄道

開拓時代にタイムスリップ! 国内最古の鉄道で温帯の森へ

メルボルンの北東、車で約60分のダンデノン丘陵は、ワイン産地のヤラ・バレーにも近い高原リゾート。国立公園に指定されているこのエリアでは、オーストラリア最古の蒸気機関車「パフフィンビリー号」が運行されている。20世紀初頭に機材運搬のために建設された機関車は多くのボランティアにより再開され、持続可能な観光資源として蘇った。全長25kmの沿線には雄大な温帯雨林や長さ85mの木製の橋など見どころ満載。グループには、サイズに合わせて1車両から全車両のチャーターが可能だ。また、80名を収容する貸切り専用のダイニング車両のほか、レイクサイド駅にはレストランとファンクションスペースを備えたビジターセンターもある。

は雄大な温帯雨林や長さ85mの木製の橋など見どころ満載。グループには、サイズに合わせて1車両から全車両のチャーターが可能だ。また、80名を収容する貸切り専用のダイニング車両のほか、レイクサイド駅にはレストランとファンクションスペースを備えたビジターセンターもある。

Puffing Billy Railway
<https://puffingbilly.com.au>



まるでおとぎ話のような世界観を味わえる観光体験

Venue

スプリング・ベイ・ミル

ウッドチップの工場跡がモダンなイベントスペースに

ホバートから車で約90分、東海岸のルトルウィタに位置する古いウッドチップ工場が理想的なインセンティブイベントの会場として生まれ変わった。1970年代に稼働していた工場跡地へのアプローチは革新的で、静けさをたたえる水辺の風景にオープンエアのウッドデッキ、円形劇場、ブリキ小屋などを設え、ほかとは一線を画す環境でのイベント開催が可能となっている。地域

への敬意を払いながら、持続可能な施設としての取り組みにも注目だ。廃棄物の削減、節水、自然エネルギーの活用などをはじめ、固有の植物やオーガニック食材を植え育てることでガーデン・トゥ・プレートを実現し、ビジネスイベントのダイニングシーンを鮮やかに彩っている。

The Spring Bay Mill
<https://www.springbaymill.com>



自然と共生する非日常空間で個性的なビジネスイベントを



「ひかりの街」、パース(ボールー)。革新的な都市開発で誕生した洗練されたホテルや個性豊かなベニューの数々から多彩なアクティビティ、心と身体を整えるウェルネス体験まで

すべてが揃うこの街は、ビジネスイベントの舞台として抜群の環境を誇る。美しい街並みと都市の利便性に豊かな自然と快適な気候が融合する唯一無二の目的地。ANA直行便に加えてアジア各都市の経由便で日本全国からの送客も容易なパースと西オーストラリアの魅力を紹介しよう。



「ひかりの街」でビジネスに輝かしい未来を プレミアムなイベントに必要なすべてが揃う西オーストラリア

City of Light ひかりの街

太陽に愛される州都

パースは「ひかりの街」だ。もとは1962年にパース上空を通過する宇宙船を歓迎するため夜も灯りをともしたところ、それを見た宇宙飛行士がその美しさを「City of Light」と称えたものだが、実際のところパースは文字通りの「ひかりの街」なのだ。

なぜか。答えは晴天率の高さにある。年間

の日照時間は実に3,000時間を超え平均して毎日8時間ものあいだ陽射しに恵まれるパースは、オーストラリアのすべての州都で最も長い日照時間を誇る、太陽の光にあふれた街なのだ。

ビジネスイベントにおいて天気はその成功を左右する大きな要因のひとつ。事実、抜けるような青空の下で満面の笑みを浮かべる参加者を見てパースでの開催は正しかったと喜ぶオーガナイザーは多い。「かなりの高確率で快晴」、まずはこの点を改めて強調しておきたい。



「雲ひとつない青空」が身近なパース

Hotels ホテル

大幅増のホテル客室

もちろんビジネスイベントの目的地として晴れていればOKなどということはない。西オーストラリア州とパースはその他の点も抜かりなくホテル、ベニュー、アクティビティの三拍子がきちんと揃っている。

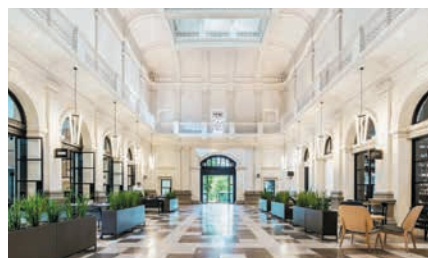


6ツ星のクラウン・タワーズ・パース

まずはホテル。2024年12月に日本アムウェイが利用した205室のザ・リッツ・カールトン・パースと500室のクラウン・タワーズ・パースはもちろん、229室のダブルツリー・バイ・ヒルトン・パース・ウォーターフロントなど、アップグレード以上を中心に実に30軒以上、5,000室超のホテルが近年だけで新たに開業。

現在、パースと周辺のエリアでは16,000室以上の客室が利用可能。上記のほかウエ

スティンやノボテルなどの大手ブランドから48室のブティックホテル、コモ・ザ・トレジャリーまで幅の広さも特徴だ。



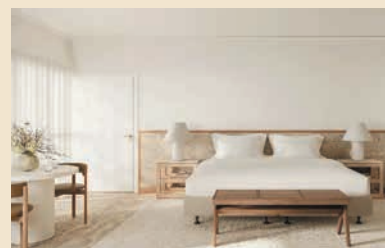
コモ・ザ・トレジャリーはアマンで有名なケリー・ヒルが設計

さらにエリザベス・キーでザ・リッツ・カールトンの向かいにも新ホテルが開業予定。詳細は公開前だが5ツ星ホテルで、今夏に開業との情報も。このほかバングルバングルなど国立公園内でもラグジュアリーホテルの建設計画が進められている。



エリザベス・キーを見下ろすリッツ。至近に新ホテルも建設中

ロットネスト島にも新ホテル



ザ・ロッジ・ワジュマップの開放感ある客室

「世界一幸せな動物」として大人気のクオッカが暮らすロットネスト島でも、宿泊の選択肢が増加。80室のラグジュアリーブティックホテル、サンファイア・ロットネストと、83軒のグランピングテントディスカバリー・ロットネスト・アイランドが完成した。

さらに109室のザ・ロッジ・ワジュマップも年内に完成予定。島のアボリジナルネームを冠した新ホテルは旧ロットネスト・アイランド・ロッジを4,000万豪ドルを投じ全面改装した施設で、すでに第1期63室が開業。イベントスペースやプールも備える計画で、米TIME誌の「世界で最も素晴らしい場所2025」に選出されるなど早速注目を集めている。

Venues ガラベニュー

「パースならではの」がそろっ ベニューの数々

再開発ラッシュでイベントスペースも大きく増加。パース近辺の合計床面積は8万km²にも達し、ユニークベニューも唯一無二の真

にユニークな施設が豊富にそろっ。

例えば日本アムウェイも利用したオプタス・スタジアムは、2018年の完成以降オーストラリアの最優秀スタジアムに何度も選出されているだけでなく、2019年には権威ある建築賞で「世界で最も美しいスタジアム」との評価も獲得しているところ。

またスワンリバーに浮かぶクリスタル・スワ
ンやザ・ラフト・パースでは水上での特別な

時間を約束。ほかにも2020年11月に4億豪ドルの改装を経て開業した西オーストラリア州立博物館ブーラ・バルディップなど選択肢は無数にあり、さらに少し遠方でも同じく日本アムウェイが最上位会員向けのランチを開催したマーガレットリバーのルーウィン・エステートのようにヘリや飛行機で容易にアクセスできるプレミアムな選択肢も。晴天率の高さを生かした屋外スペースも人気だ。



オプタス・スタジアム



クリスタル・スワン



ブーラ・バルディップ



スワンバレーのサンダルフォード

Activities 体験

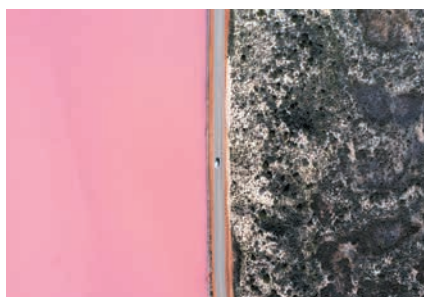
多彩なアクティビティを日帰りで

アクティビティも西オーストラリアの大きな武器のひとつ。西ヨーロッパとほぼ同じ大きさでオーストラリア大陸の3分の1の広大な土地に12,500km超(島嶼部を含めると20,000km!)もの海岸線を持つ西オーストラリアでは、既成概念にとらわれないビジネスイベントを計画することが可能だ。

人気のワイルドフラワーは当然のこと、



ピナクルズの奇岩群



神秘的な絶景、ピンクレイク

ワインクルーズ、野生のイルカやアシカ、ウミガメとのシュノーケリング、新鮮ロブスターのランチ、インド洋の美しい夕陽、人気の奇岩ピナクルズ、自然の造形美ウェーブロック、歴史ある港町での街歩きなど多種多様な体験がすべて日帰りで行けるのは、ビジネスイベントに適したパースならではのポイントだろう。もちろんクオッカをはじめカンガルーやコアラ、ペンギンなど陸上の野生動物も身近な存在だ。

そして少し足を伸ばせば、トリュフ狩り

や神秘的なピンクレイク、洞窟探検、オーストラリア大陸ならではの景色が広がる森林や荒々しい赤土のゴールデン・アウトバック、あるいは世界遺産シャークベイを経てニンガルーリーフまで紺碧の絶景が続くコーラル・コーストと選択肢はさらに広がっていく。

ちなみに、パース市内でもオプタス・スタジアムの屋根に登るヘイロー・ルーフトップ・クライムやスワンリバー上をジップラインで滑空するマダガラップ・ジップ+クライムなどチームビルディングにも使える新しいアクティビティが次々登場している。



スリル満点のヘイロー・ルーフトップクライム

ビジネスパーソンに必須の癒しをMICEでも



もストレス軽減など様々な健康効果から「幸せホルモン」と呼ばれるセロトニンは、適度な運動とともに日光を浴びることで生

世界的に注目の高まるウェルネスでも西オーストラリアの競争力は高い。そもそも

成されるのだ。

その適度な運動も、工夫をこらした体験が揃う。ユーカリの爽やかな香気たよう森で静かに深呼吸し、オーストラリアの大地が持つ癒しの力を全身に満たす時間を想像してみたい。それが市内でもできるのだ。ほかにもウォーキングやハイキングとアートなどをかけ合わせるクリエイティブなサプライヤーも存在する。

またスパやヨガなどに加え、市内のエン

バー・バス・ハウスやフリーマントルのザ・ネイバーフッド・サウナなどでの「ととのい」体験、さらに音浴や睡眠改善などウェルネス体験は充実の一途。そしてこうしたウェルネスの体験にアボリジナル文化を組み合わせることも可能だ。

心身をリラックス、リフレッシュしてさらなるビジネスの成長につなげる。そんなビジネスイベントを「ひかりの街」パースで実現してほしい。

WESTERN
AUSTRALIA

BUSINESS
EVENTS
PERTH

西オーストラリアでMICE誘致を担うBE PERTHの公式サイトではホテルや会議場、ユニークベニューと、音響・照明やアクティビティなどの各種サービスをデータベース化してあり細かな条件で検索可能。素材や行程の提案、補助金などのサポートプログラムも充実している。
<https://www.busesseventsperth.com/> 担当 Alex Ng (AlexN@bepertth.com)



2032年のオリンピック開催を控えて世界的な注目度が増している州都ブリスベン。オーストラリアを代表する国際リゾートであるゴールドコーストやウイットサンデー諸島。さらには世界遺産グレートバリアリーフなど多彩な魅力にあふれるクイーンズランド州は、ビジネスイベントの目的地としても熱い注目を集めている。しかも日々進化し、新しい魅力を増やし続けているのがクイーンズランド州だ。



参加者の期待を超えるユニークな体験を提供 ブリッジクライムから運河クルーズ、無人島上陸まで

BRISBANE ブリスベン

ストーリーブリッジ・アドベンチャー・クライム

スタート地点がお洒落エリアのハワードスミスワープに変更



世界でも3カ所にしかないブリッジクライムがブリスベン中心部(CBD)で体験可能で、チームビルディングや企業イベントにも適したアドベンチャー体験として人気を博している。写真撮影やケータリングオプションを組み合わせたパッケージプログラムを用意できるのも人気の理由だ。

このユニークな体験のスタート地点は、これまでCBDからブリスベン川を渡った対岸のカングルーポイントだった

たが、このほどCBD側の橋のたもとにあるハワードスミスワープに変更され利便性が大幅に向上。CBDから徒歩わずか10分で、日本食を含む各種レストランやバー、イベントスペースが集まる人気のお洒落エリアでもあるハワードスミスワープからスタートすることになり、飲食やエンターテインメント体験との組み合わせの選択肢も広がった。

なお州政府の助成金を活用し、特別設計された車椅子や電動昇降システムによる世界初の車椅子対応のアクセシブルクライムを導入。詳細は要問合せのこと。

The Story Bridge Adventure Climb
<https://storybridgeadventureclimb.com.au>

バイ・アーティザン

今年からスピリッツのブレンド体験も開始

ブリスベン川の南側に位置する郊外型のお洒落なエリアのウエストエンドに、バーや蒸留所、カフェなどが集まる複合施設「バイ・アーティザン」が開業した。蒸留所の技術職人とデザイナーが共同で2024年にオープンしたこの施設は、小グループ向けのイベントスペースも備えている。着席で40名が利用可能な部屋と、立食で20～30名が利用できる部屋があり、いずれもデザイナーでもある共同経営者のセンスの良さが反映された空間となっている。サステナブルな食材にこだわった軽食とともに、オーストラリア産の植物から作ったスピリッツや特製カクテル、オーストラリア産のワインやコーヒーなどを堪能できるのも特徴だ。

またスピリッツのブレンド体験や、蒸留過程の副産物を生かしたアロマオイルや石鹸



作りなどの体験ワークショップも今年中に開始する予定だ。

ローンパイン・コアラ・サンクチュアリとコラボレーションした特別限定蒸留のジンも製造しており、このジンの収益の5%がコアラ保護活動事業に寄付される。ビジネスイベントでジンを消費することでコアラ保護に貢献できる仕組みだ。



ラ保護活動事業に寄付される。ビジネスイベントでジンを消費することでコアラ保護に貢献できる仕組みだ。

BY.ARTISANS
<https://byartisans.com.au>

GOLD COAST ゴールドコースト

シーワールド・クルーズ

水面からの街の絶景が最高の舞台装置

街の景観や夜景を運河や内海から眺めつつ水上のビジネスイベントを楽しめる環境が整っているのがゴールドコーストの大きな魅力だ。オーストラリアン・ツーリズム・アワード2025で、観光レストラン&ケータリングサービス部門で金賞を受賞したクルーズ会社、シーワールド・クルーズではビジネスイベント向けのベニューやクルーズを用意している。また、発着地をサーファーズパラダイスに設定できるので、宿泊先から歩いて移動できるのも魅力のひとつ。

スピリット・オブ・エルストン号 (Spirit of Elston) は、橋がかかっている運河を運航するのに適した観光ダイニング船として設計されたもので、船体が全体的に低く作られてい

る。最上階にオープンエアのサンデッキを設けても運河の航行に支障がないため、開放感もたっぷり味わいながらゴールドコーストの美しい街並みや高層ビルのスカイライン、ランドマークなどを一望できる。

サンデッキでは亜熱帯の心地よい風を感じながらくつろぐことができる一方で、エアコン完備の下の階へ移動することもできる。穏やかな水面を航行するため船酔いの心配がないのも強みの一つだ。最大立食で100名、着席では70名まで収容可能で、企業イベントや授賞式、ガラディナーなどあらゆるビジネス



イベントに対応。水面から眺める絶景がビジネスイベントの最高の舞台装置となる。また、通常パッケージにはローカルミュージシャンの演奏も含まれているので、クイーンズランドらしい演出ができる。

Sea World Cruises

<https://seaworldcruises.com.au/charters-functions>

Whitsunday Islands ウィットサンデー諸島

ハミルトン島

スーパーヨットでのクルーズ体験も

宿泊施設やアクティビティの多彩さ、客室供給力の豊富さからビジネスイベント開催地としてもポテンシャルが高いハミルトン島は、日本企業のビジネスイベントも数多く受け入れてきた実績がある。先日日本企業による約60名規模の報奨旅行の目的地となり、オーガナイザーがラグジュアリーボートをチャーターし優待客に特別なもてなしを提供した開催事例があった。

ハミルトン島の強みは、南国のリゾートアイランドとしてのカジュアルさがありつつ、非日常感や特別感を演出する仕掛けが多数用意されていること。具体的にはスーパーヨットでのサンセットクルーズ&カクテルパーティー、ホワイトヘブンビーチでのBBQ、専属シェフによるディナー付きチャータークルーズ、ゴルフやスパを組み合わせたラグジュアリーなデ

イプランなどで、ハミルトン島だからこそそのプログラムを実現できる。

たとえば「M.Y.インパルス」プランは、5つ星レストランのヘッドシェフ経験者が腕を振るうスーパーヨットでのディナークルーズで、最大80名(船内宿泊の場合は10名まで)までに対応可能。2時間または4時間のコースが選べる。

このほか35名(船内宿泊の場合は6名まで)まで対応可能なモーターヨットを利用する「アラニ・チャーター」や、12名まで対応可能なプランもある。



新ホテル「ザ・サンデーズ」がオープン



ハミルトン島に新規ホテルがオープンした。4月24日に公式開業したブティックホテル「ザ・サンデーズ」は、キャッツアイ・ビーチの北側に位置し、全59室から海を望むことができ目の前にコーラルシーの絶景が広がる。ホテル専用のプライベートプールやカバナ、海辺のレストラン&バーもあり、ビジネスイベントに参加するVIPの滞在先にも適している。

Hamilton Island

<https://www.hamiltonisland.com.au>

CAIRNS ケアンズ

フランクランド諸島

1日最大100人限定で無人島に上陸

フランクランド諸島はグレートバリアリーフの海域に浮かぶ島々で、一帯はフランクランド諸島国立公園となっている。この島々の中にある無人島への人数限定ツアーを実施しているのがフランクランド諸島リーフルーズだ。ツアーの出発地はケアンズから車で約45分のディーラル港。ここからクルーズ船でマングローブ林を眺めながらのリバークルーズと、河口からの洋上クルーズの計30分を掛けて無人島のノーマンピー島に上陸。4時間の滞在時間中にシュノーケリングやダイビング、カヤック、パドルボート、専門

ガイドによるビーチウォーク等を体験できる。ウミガメやマンタ、ジュゴンなどさまざまな海洋生物に遭遇できるチャンスもある。

最大1日100名の限定上陸で、広大なビーチは混雑知らず。30年以上の運航実績があり参加客8名に対して1名以上のスタッフが同行し、乗船スタッフには日本人もいるのが安心材料だ。また、団



体貸し切りツアーも催行している。

Frankland Islands

<https://www.franklandislands.com.au>



オーストラリア随一のリゾート地、ゴールドコーストには、他にはない特別なエネルギーが満ちあふれている。年間約300日の晴天率を誇り、1300万人以上が訪れるこの地では、訪れる人々が降り注ぐ陽の光を浴び、心地よい砂

を踏みしめ、無限に広がるアクティビティに心躍らせる。57キロにわたるビーチと青く輝く海、世界遺産に登録された10万ヘクタールの熱帯雨林、数々の賞に輝く美食、アクティブなアドベンチャー体験、そして多彩なイベントが繰り広げられ、常に進化し続けている。ここでは、インスピレーションが湧き、新たなつながりが生まれ、情熱がほとばしる。まさにビジネスイベントやインセンティブ旅行に最適なデスティネーションだ。



ビジネスイベントを成功へと導く ゴールドコースト

Unique Venues

魅力あふれるユニークベニュー

オーストラリアならではの
野生動物との触れ合い

**カランビン・ワイルドライフ・
サンクチュアリ**

ゴールドコースト南部、カランビンビーチ近くに広がる27ヘクタールの熱帯雨林。ナショナル・トラスト・クイーンズランドが管理し、さまざまな野生動物たちが自然のままに暮らしている。2025年5月、新たに「ザ・ホームステッド」レストランがオープン。サンクチュアリならではの多彩なイベントに対応可能で、ここでの野生動物との触れ合いは、オーストラリアならではのユニークな体験として、忘れられない思い出となるだけでなく、ビジネスイベントの場面においても、新たなインスピレーションをもたらしてくれるだろう。

currumbinsanctuary.com.au/what-to-see-and-do/homestead (英語)



かつての高級レストランが
特別なイベント空間に

トロピカル・フルーツ・ワールド

世界中から集められた500種類を超えるフルーツを栽培している大規模農園。敷地内には1972年に建てられ、80年代には高級レストランとして名を馳せた「プランテーション・ハウス」があり、近年、大規模な改装を経て、地域屈指のイベント会場へと生まれ変わった。ツインドバレーののどかな田園風景を一望できるこの歴史ある農園に佇みながら、豊かな自然と温かみのあるインテリアが織りなす特別な空間で、美食とワインを堪能できる。

www.tropicalfruitworld.com.au/pages/plantation-house (英語)



ゴールドコーストで
美食と最高のサンセットを体験

**ザ・トロピック・レストラン&
バーレイ・パビリオン・ビーチバー**

バーレイヘッドにある絶景が自慢のダイニングスポット。コンベンションセンターから車でわずか15分と、オフサイトディナーに最適なロケーションを誇る。カジュアルながら洗練された雰囲気のレストランでは、地中海風のシーフードやシェアスタイルの料理、クラシックなメニューをアレンジした一皿が味わえ、バーでは、ゴールドコーストで最高のサンセットが楽しめる。60名から900名まで対応可能なイベントスペースを備えているので、特別なイベント会場として活用できる。

burleighpavilion.com (英語)



最新技術で誰でもゴルフ一気分!

トップゴルフ

初心者から上級者まで楽しめるゴルフ・エンターテインメント施設。世界No.1の最新技術を導入し、マイクロチップ内蔵のボールを的に向けて打つと、リアルタイムでショットデータが表示されスコアを競う。ゴルフ経験がなくともゲーム感覚でプレイを体験できる。屋内のイベントスペースを完備し、天候に左右されないチームビルディングやネットワーキングなど、目的に応じたプログラムは、フォーマルな会議とはひと味違う、リラックスした交流の場として最適だ。

topgolf.com.au/parties-and-events (英語)



新たに誕生したグルメ空間で、ユニークなイベント体験

マイアミ・マーケットタ

ゴールドコースト初のストリートフード・マーケットは、空港から車で約20分、ブロードビーチにも近い。アートやファッションのスタジオ、ナイトマーケットやアート展示、ミュージックコンサートなど多彩なカルチャーが集まり、にぎわいを見せる。倉庫を活用した屋内スペースは最大1,200名まで対応可能。立食や着席など、柔軟に対応し、屋根付きながら屋外イベントのような開放感が魅力。地元クラフトビールやワイン、ジンやシャンパンのセレクションに合わせて、国際色豊かな料理を楽しむ。

www.miamimarketta.com (英語)



2025年以降続々オープン！ ゴールドコーストのラグジュアリーな宿泊施設

2025年オープン

ライフスタイル・ホテルがバーレイに初登場 モンドリアン・ゴールドコースト

ライフスタイル・ホテル「モンドリアン」が、いよいよオーストラリア初上陸。2025年、バーレイにオープンする新ホテルは、建築、デザイン、美食、ウェルネス、そして文化的つながりを融合させ、地域のホスピタリティ・シーンに新たなスタイルの潮流をもたらす。目の前に広がる自然の美しさと、サーフカルチャーが息づく街のリズム、創造的なコミュニティとの調和が織りなす、個性あふれる唯一無二の空間が誕生する。

mondrianhotels.com/gold-coast (英語)



2026年オープン予定

ザ・スターに2棟目のレジデンス型宿泊施設 ザ・スター・レジデンスズ タワー2

統合型リゾート「ザ・スター・ゴールドコースト」に、2棟目のレジデンス型宿泊施設が誕生。全437室で建物の22～44階を占め、モダンな1～2ベッドルームの客室を提供。洗練されたデザインは明るく開放的で、ゴールドコーストの海岸線を望む絶景が広がる。宿泊者専用のプールやスパ、カジュアル＆プライベートダイニングエリアなど、充実したアメニティも完備。ザ・スター・カジノのレストランや各種施設も利用できる。

www.star.com.au/goldcoast/hotels-and-spa/the-star-residences (英語)



2026年オープン予定

オーストラリア初上陸、話題のプールエリアにも注目 アンダーズ・ゴールドコースト

「ザ・スター・ゴールドコースト」タワー2の6～21階には、ハイアットの高級ライフスタイル・ブランドの「アンダーズ」がオーストラリア初オープン。全202室のゲストルーム＆スイートに加え、フィットネスセンターや3つのレストラン＆バー、終日利用可能なアンダーズ・ラウンジを併設。また6階の屋外プールデッキには、カクテルバー、プライベートカバナ付きのビーチクラブ、屋外ダイニングエリアを備え、話題のスポットとして期待を集めている。

newsroom.hyatt.com/2024-09-25-Hyatt-Announces-Plans-for-First-Andaz-Hotel-in-Australia (英語)



2026年オープン予定

ゴールドコースト屈指のラグジュアリー体験を提供 ザ・リッツ・カールトン・ゴールドコースト

ゴールドコースト北部、メインビーチのマリナーズ・コープで進む総額4億8000万豪ドル規模のウォーターフロント開発プロジェクトの一環としてオープン予定。スイートを含む150室の豪華な客室をはじめ、3つのバー、ルーフトッププール、リッツ・カールトン・スパ、そして広さ512平米のボールルームを完備し、ゴールドコースト屈指のラグジュアリー体験を提供する。

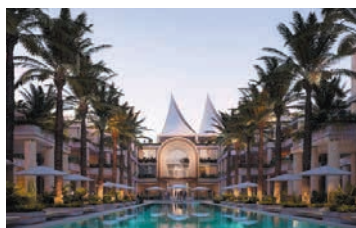


2027年以降オープン予定の5スターホテル

2027年オープン予定

マリオット系「ラグジュアリー・コレクション」初のホテル マリナーズ・ミラージュ・ゴールドコースト

マリオット・インターナショナルとマクリス・グループの提携により、オーストラリア本土初の「ラグジュアリー・コレクション」ブランドのリゾートとして、世界でも屈指のユニークで本格的な体験を提供。マリナーズ・コープにあるマリナーズ・ミラージュの複合施設内に位置し、122室の客室を擁する新築のファーストクラス・リゾートとなる予定だ。



2027年オープン予定

サーファーズ・パラダイスに初登場 ザ・セントレジス・ゴールドコースト

オーストラリア初の「ザ・セントレジス」ブランドのホテルがサーファーズ・パラダイスに誕生。185室の客室とスイート、ウェルネス・スパ、スカイバー、プールバー、ラウンジ、ペントハウスコレクション、そしてシグネチャー・バーの「セントレジス・バー」など、最高級のホスピタリティを提供。洗練されたラグジュアリーとゴールドコーストのリラックスした雰囲気が融合する、新たなアイコンとなる。





ニュー・サウス・ウェールズ州 (NSW) にはMICE開催のために必要なものがすべて揃っている。オーストラリア第1位のMICE都市であるシドニーとその周辺は、インフラが整

いベニューや宿泊施設は十分な水準の質と規模を兼ね備えている。また州内の豊かな自然環境は、MICE参加者の満足度を高めるさまざまな体験素材を提供する。そんなNSWでいま、プランナーが注目すべきベニューと体験の最新情報を紹介する。



画像提供:シドニー・オペラ・ハウス

MICEを輝かせるためのヒントを紹介 プランナーが注目すべきベニュー&体験

VENUES | ベニュー

シドニー・インターナショナル・コンベンションセンター (ICCシドニー)

Sydney International Convention Centre (ICC Sydney)

NSWだけでなくオーストラリアを代表するMICE会場。ダーリングハーバーに立地し、市の中心街から徒歩圏内にありアクセスの良さが特徴の一つとなっている。コンベンションセンター、エキジビションセンター、シアターの3つの施設で構成されている。グランドボールルームは宴会形式で2000名、カクテル形式では3500名を収容可能。多機能・多目的な会議室、各種展示ホール、シアター、オープンエアイベントスペース、アウトドアバー&ラウンジエリアなどもある。

<https://iccsydney.com.au>



©Destination NSW

シドニー・オペラ・ハウス

Sydney Opera House

シドニー・ハーバーに突き出たベネロング・ポイントの先端にある世界的に有名な建築物。シドニー・オペラ・ハウスは世界文化遺産であると同時に、バレエ、オペラ、演劇、音楽など年間1600もの公演が催される芸術とエンターテインメントの拠点でもある。さらにMICEの人気ベニューにもなっている。美しいシドニー・ハーバーやシドニー・ハーバー・ブリッジの絶景を眺めながらイベントを開催できるノーザンフォイヤーではガラディナーがおすすめ。カクテルで最大1000名、着席で500名受け入れることができる。

<https://www.sydneyoperahouse.com/venue-hire>



画像提供:シドニー・オペラ・ハウス

シドニー・タウンホール

Sydney Town Hall

シドニー中心部のCBD (セントラル・ビジネス・ディストリクト) に立地する、時計塔が目印の市庁舎は、19世紀後半に建造されたオーストラリアを代表する歴史的建築物としても知られる。ビクトリア朝様式の豪華な装飾が施された屋内スペースはユニークベニューとして利用可能。オーストラリア建国100周年を記念して1889年に完成したセンテニアルホールはシアター形式で2000人収容で、800人規模のディナーにも使える。他に200人規模のスペシャルイベントやディナーに適したザ・ベスティビュールや中小規模のレセプションやイベント等に適した施設もある。

<https://www.cityofsydney.nsw.gov.au/landmarks/sydney-town-hall>



©Destination NSW

シドニー動物園

Sydney Zoo

シドニーからブルー・マウンテンズへの途上のパンガリピーに立地し、車で約40分の距離。コアラなどオーストラリア固有動物を含む4000以上もの多彩な動物たちとの触れ合いや、オーストラリアの先住民アボリジナル・ピープルの歴史や文化を学べるプログラムもある。アフリカのサバンナを再現したエリアを見晴らす「ライオン・デッキ」や、屋内の「ブルバード・ファンクションルーム」、トラやゾウを見られる「タイガー・プール」、ミニアキタットを間近に観察できる「ミニアキタット・ファンクションルーム」などを利用すれば、他では体験できないビジネスイベントが可能。日本市場の担当者もいる。

<https://sydneyzoo.com>



画像提供:シドニー動物園

タロンガ動物園

Taronga Zoo

シドニー中心部から車で約30分だが、サーキュラーキーからフェリーを使えば12分程度とアクセスも良い。動物園でありながら、企業イベントやガラディナー、会議などの会場としても知られる。園内にあるインセンティブツアーに適した宿泊施設のワイルドライフ・リトリートには人気のイベントスペースがあり、眼前に広がるシドニー・ハーバー・ブリッジやシドニー・オペラ・ハウス、そしてシドニー・シティの絶景が楽しめる。プライベートバルコニー付きの「ダラン・ボールルーム」ではカクテルで300名、着席で250名のイベントが可能。動物園内の芝生のイベントスペースでは、カクテル形式で2000名収容の屋外コンサート会場も利用できる。 <https://taronga.org.au/sydney-zoo>



画像提供:タロンガ動物園

ビジネスイベント・シドニー

Business Events Sydney

MICE誘致とサポートの中心

ビジネス・イベント・シドニーはシドニーおよびニュー・サウス・ウェールズ州へのMICE団体誘致に取り組んでいる非営利組織。大型MICE誘致のためにイベント施設の情報やアイデア面で各種サポートを提供しており、補助金申請の窓口でもある。州政府、シドニー市、業界の協力で運営され、提供するサービスやサポートはすべて無料。日本担当のLucy Jin (ルーシー・ジン) は日本語での対応も可能。 <https://www.besydney.com.au>



画像提供:Lucy Jin

EXPERIENCES | 体験

おすすめ体験 01

シドニー・ハーバーで優雅にクルーズ

世界で最も美しいと称賛されるシドニー・ハーバー。美しい景観を楽しむシドニー・ハーバー・クルーズは、MICE参加者を魅了する特別な体験になることは間違いない。

キャプテン・クック・クルーズ

Captain Cook Cruises



画像提供:キャプテン・クック・クルーズ

1970年の運航開始から55周年を迎えた老舗クルーズ会社。シドニー・ハーバー・クルーズを定期運航しているシドニー2000号は最大700名が乗船可能で、プライベートダイニングが2室ある。チャーターベースの最新船ジャクソン号は490名～675名までの貸切利用に対応する。このほか360度の眺望を楽しめるクリアビューグラスボートのスターシップ・シドニー号は定員1000名の大型船で、定員300名の姉妹船スターシップ・アクア等もあり、グループサイズによって使い分けられる。日本人スタッフが手配を担当するのも特徴だ。

<https://www.captaincook.com.au>

ファンタシー・クルーズ

Fantasea Cruises



画像提供:ファンタシー・クルーズ

プライベートな少人数での利用から、最大1200名のグループまで、さまざまなチャータークルーズに対応する。そのために16名乗りのウォータータクシーから大型船まで幅広いクルーズシップを揃えている。また定番のイブニングクルーズから、ニューイヤーズイブなど特別なイベントのためのクルーズ、企業イベント、記念行事などMICEプランナーが望むクルーズに柔軟に対応する。小グループの場合は、ウォータータクシーを利用してシドニー・ハーバーのピクニック体験ができるなど船ならではのユニークな体験を提供する。

<https://www.fantasea.com.au>

オーストラリアン・クルーズ・グループ

Australian Cruise Group



画像提供:オーストラリアン・クルーズ・グループ

ラグジュアリーなハーバークルーズを得意とし、どの席からも360度のハーバービューを楽しめるクリアビューグラスボートや、ダイニングサロンのある双胴船マジェスティックII号、食事会場と華やかなエンターテインメントが楽しめるショー・ステージのある外輪船ショーボートII号を運航する。1987年の創業以来、200万人以上の日本人乗船客を迎えてきた実績が信頼の証しだ。日本語対応スタッフの存在や、カスタマイズにも対応するメニュー、最新のAV機器など、MICEインセンティブツアーの成功につながる細やかなサービスも特徴だ。

<https://www.australiancruisegroup.com.au>

おすすめ体験 02

美味しい牡蠣をたっぷり味わう

シドニーの味覚と言えばオイスター（牡蠣）。それも水揚げされたばかりの新鮮なオイスターをいただく極上の食体験は、インセンティブツアーの忘れない思い出となるはずだ。

シドニー・オイスター・ファーム・ツアー

Sydney Oyster Farm Tours

シドニーから北へ車で45分、ホクスベリー川の河口付近にあるオイスター（牡蠣）養殖場を訪れて、新鮮なオイスターを楽しむ。ボートに乗って養殖場を訪れ、船上で牡蠣の殻の開け方を教えてもらい獲れたてを食べる。船上ではなく、浅瀬にテーブルセッティングしてオイスターと軽食を楽しむ水上試食のプランもある。最も豪華な「オイスターエレガンス」コースは、養殖場を訪れ殻むきなどを体験した後、眺望抜群のビーチに上陸し、美しくテーブルセッティングされた邸の野外レストランで、前菜から始まるオイスター主体のグルメシーフードランチを楽しむ。 <https://www.sydneyoystertours.com>



©Destination NSW

ブローケン・ベイ・パール・ファーム

Broken Bay Pearl Farm

シドニーから北へ車で50分の距離にあるブローケン湾に面したブローケン・ベイ・パール・ファームは、NSWで唯一の「真珠とオイスター（牡蠣）の両方」を手掛ける養殖事業者。ボートに乗ってそれぞれの養殖現場を訪れ、養殖についての学びや生態系に関する理解を深められる。オイスターの試食体験をすることもでき、希望すれば真珠を購入することも可能。養殖場を訪れオイスターを試食するツアーや、真珠養殖とオイスター養殖の両方を学ぶツアー、両方を学んだうえでオイスターを試食するツアーが設定されており、グループにも対応している。 <https://brokenbaypearlfarm.com.au>



©Destination NSW

新シドニー・フィッシュ・マーケット

The New Sydney Fish Market Project

南半球最大の卸売魚市場であるシドニー・フィッシュ・マーケットは、市中心部からも徒歩圏内で、路面電車ライトレールの駐車場もある。現在あるシドニー・フィッシュ・マーケットの隣では新マーケットが建築中で、2025年後半にオープン予定。本格的な市場としての

機能は変わらないが、市民や観光客が楽しめる新たなグルメスポットとしても期待される。大衆的なフィッシュ&チップスから高級グルメシーフード料理まで多彩な味を提供する飲食店が出店する予定だ。

<https://www.sydneyfishmarket.com.au>



画像提供:Department of Planning and Environment



オーストラリア3都市へノンストップ カンタス航空で行くオーストラリア

東京(羽田/成田)からオーストラリア3都市(シドニー、ブリスベン、メルボルン)へ、毎日直行便*を運航するカンタス航空。2025年12月15日から2026年3月28日までは、札幌(新千歳)ーシドニー直行便を週3便で運航する^。オーストラリアへは、乗った時からオーストラリア気分になれるカンタス航空がおすすめだ。

*スケジュールは予告なく変更になる場合があります。 ^政府および関係省庁の認可を条件とします。スケジュールは変更になる場合があります。

SCHEDULE

利便性の高いフライト 日本各地からの乗り継ぎも便利

東京(羽田/成田)からオーストラリア3都市(シドニー、ブリスベン、メルボルン)へ毎日直行便*を運航するカンタス航空。なかでもシドニーへは、1日2便運航しているので、旅程に合わせたフライト選択ができるのが便利。オーストラリアは日本との時差が少ないので、着いた直後から時差ボケを気にせず観光を楽しめる。また日本各地からは、日本航空またはジェットスター・ジャパンの国内線を利用することで、羽田や成田経由での乗り継ぎはスムーズだ。

*スケジュールは予告なく変更になる場合があります。

SERVICE

オールインクルーシブで安心・快適

カンタス航空の日本発オーストラリア行きのすべての運賃には、以下項目が含まれているため、追加料金はなし。トータルで考えればリーズナブルに、ストレスなく安心して旅ができる。

	運賃	燃油サーチャージおよび諸税込の運賃を提供
	受託手荷物	日本発オーストラリア、ニュージーランド行きのフライトでは、エコノミークラスは30キロ、ビジネスクラスは40キロまで個数制限なしで、無料で預けられる
	機内食、飲物	もちろんすべて無料。オーストラリア産のワインやブランドベースの食事など、現地の味や健康、環境を意識したニーズにも応える
	機内エンターテインメント	映画やドラマ、音楽など、1000時間以上の幅広いコンテンツを提供。好きな時間に好きなだけ楽しめる

NETWORK

オーストラリア国内へ充実のネットワーク

カンタス航空はオーストラリア国内線の充実したネットワークを持っており、国内就航都市数は60都市以上^。シドニー、ブリスベン、メルボルンで乗り継げば、日本からの直行便がない都市へもスムーズにアクセスできる。

*就航都市数は2025年5月26日現在のものです。変更になる場合があります。



ECONOMY CLASS

快適な座席でゆったりとくつろげる エコノミークラス

人間工学に基づいて設計されたゆったりとくつろげるシートで、豊富な機内エンターテインメントが楽しめる。

またボリュームのある機内食は3種類から選べ、オーストラリア産のワインも豊富にラインナップ。搭乗した瞬間からオーストラリアを感じることができる。

運賃に受託手荷物が含まれているので、日本発オーストラリア行き航空券の場合、エコノミークラスでは個数制限なしで総重量30kgまで無料と安心。



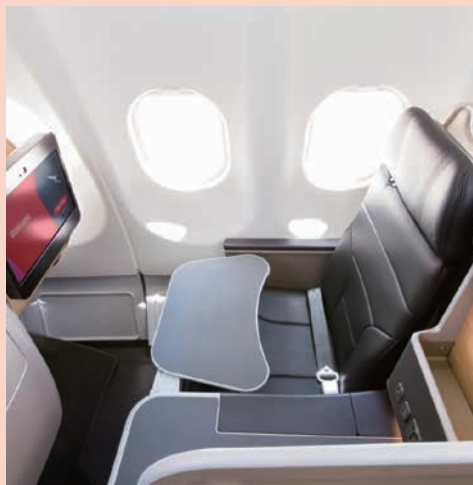
BUSSINESS CLASS

離陸から着陸までリクライニングが可能 ビジネスクラス

全席通路に面したビジネススイートは、離陸から着陸まで、専用のマットレスを付けたままフルフラットベッドでのリクライニングが可能で、PC電源とUSBポートも完備。収納可能なタッチパネル式モニターでは、豊富なエンターテインメントを周辺の音を軽減する機能付きのヘッドフォンで楽しめる。

また、コットン100%のパジャマやサステナビリティを意識したアメニティキットを用意。オーストラリアの人気シェフ、ニール・ペリー氏がプロデュースした機内食もぜひ味わいたい。出発前は、ビジネスラウンジでゆっくりとくつろぐことができる。

なお、ビジネスクラスでは、日本発オーストラリア行き航空券の場合、個数制限なしで総重量40kgまで無料だ。



ブリスベン空港 カンタス ビジネスラウンジ

CHECK!

団体旅行はカンタス航空で

Point 01 豊富な座席供給で大型団体にも対応

カンタス航空の日本路線では、使用機材として主にエアバスA330-300型機やA330-200型機を投入している^{*}ので、十分な座席供給を提供。特にA330-300型機は、エコノミークラスだけでも269席を設けているので、200名以上の大型団体にも対応できる。

^{*} 機材は予告なく変更になる場合があります。

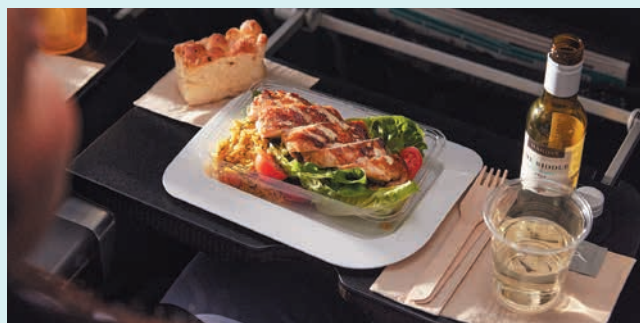
Point 02 早期の団体座席確保が可能

約1年先までの団体予約の場合は、運賃の確約と座席の確保、問い合わせに関しては2年先まで受け付けている。その場合、座席確保および参照運賃の案内が可能なので、費用総額をあらかじめ算定できるのは嬉しいポイントだ。

CHECK!

人気の機内食、オーストラリア産ワインも

日本路線のエコノミークラスでは、常時3種類から選べる機内食を用意。プラントベースのメニューも用意しているので、健康や環境に配慮したい人にはおすすめです。ワインはオーストラリア産のワインをミニボトルで提供。特別機内食も豊富に用意しているので、各個人の要望にも対応する。リクエストは、出発予定時刻24時間以上前まで（ユダヤ教徒食は36時間前まで）にウェブサイトの「予約照会」のページから可能だ。



エコノミークラス



ビジネスクラス

オーストラリアへは カンタス航空の直行便で快適に



豊富なネットワーク

東京(羽田/成田)からシドニー、ブリスベン、メルボルンへ直行便を毎日運航しています*。国内線も豊富なのでオーストラリアの各都市にスムーズにアクセスできます。



大型団体の取り込みも可能

日本路線は主にA330-300型機にて運航しており^、その座席数の多さから団体旅行にも適しています。



快適な機内体験

カンタス航空のすべての運賃に、選べる機内食とお飲み物、機内エンターテインメント、預け手荷物が含まれてるので安心、快適にお過ごしいただけます。

* スケジュールは予告なく変更になる場合があります。

^ 機材は予告なく変更になる場合があります。

 **QANTAS**
Spirit of Australia

